

令和2年 病虫害発生予察情報 特殊報 第1号

令和2年8月27日
青森県病虫害防除所

ツマジロクサヨトウの発生確認について

1 作物名 飼料用トウモロコシ

2 病虫害名 ツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda*)

3 発生経過

本年8月26日に五戸町の飼料用トウモロコシ栽培ほ場1地点において、食害(写真1、2)が認められ、食害株から本種と疑われる幼虫(写真3、4)を捕獲した。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、27日、ツマジロクサヨトウであることが確認された。

4 本種の形態、被害の特徴等

- (1) 終齢幼虫は体長約40mmで、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆Y字状の模様及び尾部の斑点が特徴である。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅に淡色斑と白斑を持つ(写真5、6)。
- (2) 幼虫が寄主作物の葉、茎を食害する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。
- (3) これまでのところ、国内で発生が確認された農作物はイネ科作物(飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ等)及びしょうがである。本年1月に、沖縄、鹿児島で幼虫発生が確認されており、8月26日時点では全国31県で幼虫発生が確認されている。東北では、山形県で7月8日、秋田県で7月10日、福島県で8月3日、宮城県で8月17日にいずれもスイートコーン又は飼料用トウモロコシで確認されている。

5 防除対策

- (1) 寄主範囲が広いことから、収穫前の作物がある場合は、ほ場をよく見回りチョウ目幼虫の食害がないか確認する。また、本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに病虫害防除所に連絡する。
- (2) 県は、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、国の指定した薬剤による散布指導を行う。本虫に対して使用できる農薬については、以下の農林水産省ホームページを参照する。
※農林水産省HP「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」
https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html
- (3) 発生が確認されたほ場では、本種の幼虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕耘し残渣を鋤込む。また、未発生のスイートコーン等の収穫跡地や緑肥の鋤込み跡地において、こぼれた種から再発芽した野良ばえが見られる場合は再度耕耘する。
- (4) 10.9℃以下では発育できないとされていることから、本県での露地越冬の可能性は低いと推察される。しかし、加温施設等では理論上越冬が可能であることから、施設栽培等においてこれから収穫を迎える作物がある場合は、幼虫の発生がないか十分注意する。



写真1 食害の状況



写真2 食害の状況



写真3 幼虫



写真4 幼虫



写真5 雄成虫



写真6 雌成虫

(写真5、6の出典は植物防疫所)

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所

TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900

〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6

E-mail : byougaichu@pref. aomori. lg. jp

※この情報は、青森県農業情報サービスネットワーク「アップル農場：病害虫防除情報」(<https://www.applenet.jp>)に掲載しています。

(参考)

表1 飼料用とうもろこし

商品名	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
トアロー水和剤CT、サブリナフロアブル	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
エスマルクDF、フローバックDF、エコマスターBT	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
パダンSG水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
スミチオン乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

表2 未成熟とうもろこし

商品名	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
ゼンターリ顆粒水和剤、デルフィン顆粒水和剤、サブリナフロアブル	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
エスマルクDF、フローバックDF、エコマスターBT	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
トアロー水和剤CT	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	—
スミチオン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
デナボン粒剤5	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 但し、 収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
エルサン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
トレボン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
トレボン粉剤DL	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
パダン水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
パダンSG水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
パダン粒剤4	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
マトリックフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
プレバソフロアブル5	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
コテツフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
ゲットアウトWDG	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
プレオフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
プリンスフロアブル	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
パーマチオン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
カスケード乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
カスケード乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フェニックス顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
アディオン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
アクセルフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
アニキ乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

表3 ソルガム(飼料用)

商品名	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
オルトラン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

※上記農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用する農薬として、使用が可能です。

※上記使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ること、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

※最新の情報については、農林水産省HPを参照してください。上記の作物以外で使用可能な農薬も記載されています。

http://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-130.pdf